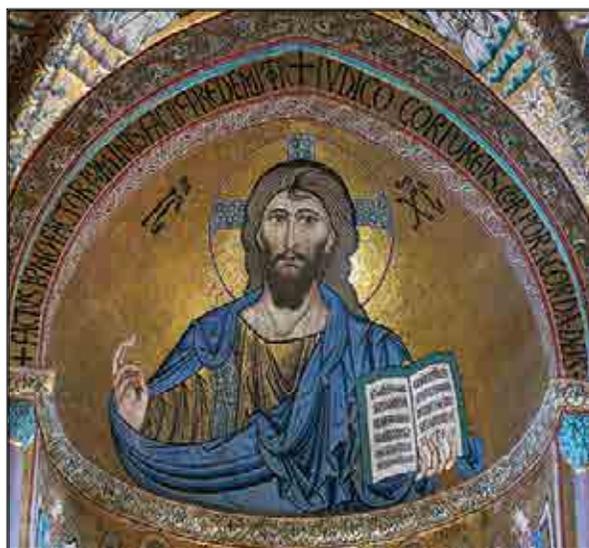


ギリシア教父の世界

ニカイアからカルケドンまで

F. M. ヤング 著 関川泰寛／本城仰太 訳

教理形成期の神学者の群像



キリストの神性について激しい議論が交わされ、キリスト教の教義が大きく発展した4 - 5世紀。当時の神学論争や教会生活に関わり、主に東方地域で活躍した著述家たちを、主要文献の概要とともに紹介。最新の研究から多様な神学思想とその歴史的背景を解説した、教父学への最良の手引き！

著者紹介

F. M. ヤング (Frances M. Young) …古代教父研究者。長くバーミンガム大学教授を務め、その神学研究の功績から大英帝国勲章を受章(1998年)。現在、バーミンガム大学名誉教授、イギリス学士院会員(2004年)。イギリス・メソジスト教会の牧師でもある。

訳者紹介

関川泰寛(せきかわ・やすひろ) …日本基督教団大森めぐみ教会牧師。著書に『アタナシオス神学の研究』(教文館、2006年)ほか多数。

本城仰太(ほんじょう・こうた) …東京神学大学准教授、日本基督教団中渋谷教会牧師。著書に『使徒信条の歴史』(教文館、2023年)。